

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年8月号

# 森のおくりもの8

NO.395 The Gift from Woods

ムモンホソアシナガバチ (スズメバチ科)



樹木の葉裏に巣をつくることが多いこのハチ、今年はカラ梅雨でしたから巣の方もだいぶ大きい造りになっていました。柔らかい色合いのハチで穏やかそうですが、スズメバチ科であり毒をもっていますので、ハチはハチ、注意が必要です。樹液を吸いに甲虫以外にスズメバチ類も集まりますので、樹液に集まる昆虫観察では十分にご注意ください。

【館長：佐藤由美】

# 森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

## 『雨後の筍（うごのたけのこ）』

今年の梅雨入りは、平年より11日も遅かった上にあまり雨が降らず、梅雨らしくありませんでした。この時期の潤った森の中でいろんなきのこを鑑賞していますが、雨が少ない影響でいつもは見られるきのこが生えていなくて異常を感じました。そんな中でも雨が数日続いた途端、待ちわびていたかのようにきのこが生えてきて、「雨後の筍」だと思いました。

茸のことなのに筍なんて変ですが、例え言葉なので使い方は合っています。「雨後の筍」とは、「雨上がりには筍が次々と生えてくることから、物事が相次いで現れることのたとえ」です。「同じようなものが続々と出てくる様子を例えた表現」なので、成長が早いことの意味で使うのは誤りです。ネガティブな意味で使われることも多いため注意が必要です。

由来としては「雨が降ると筍がよく出てくることから」なのですが、実際は筍には発生する季節と期間が決まっています。筍の発生シーズンは竹の種類と地域によりまちまちで、それぞれ40～50日程度です。筍は地下茎から生えますが、地下茎には寿命があって10年程度、そのうち筍を発生させる能力のピークは3～4年目だそうです。また、豊作と不作の年があり交互に繰り返します。確かに雨は筍が生えるのには重要ですが、時期が合わなければいくら雨が降った後でも筍は生えないのです。きっと筍の発生時期と梅雨時のタイミングが重なっていることでイメージされたのではと推察しました。

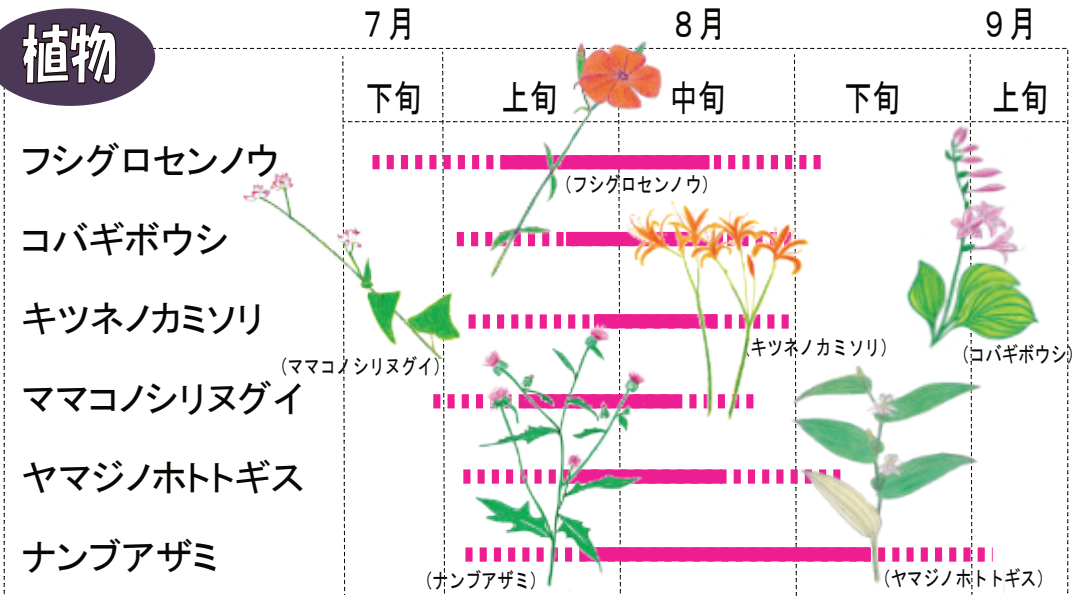
一方、雨が降る時期には何かしらのきのこが見られます。梅雨や秋雨など、長雨の季節には多くの種類が発生します。自然現象としてはきのこの方が合っているし、“たけのこ”から“きのこ”へ少し変えるだけで済むから大丈夫だななんて考えてしまいました。

8月といえば七夕の時期です。七夕飾りを笹飾りといいます。飾り付けるのは竹です。竹と笹の違いとか、竹は木なのか草なのかなど、竹や笹は生活や文化に根付いている身近な存在なのに、地下茎に寿命があることなど知らなかったこともあり、謎が多くて興味深いです。 【レンジャー：新田隆一】



# 8月の生物ごよみ

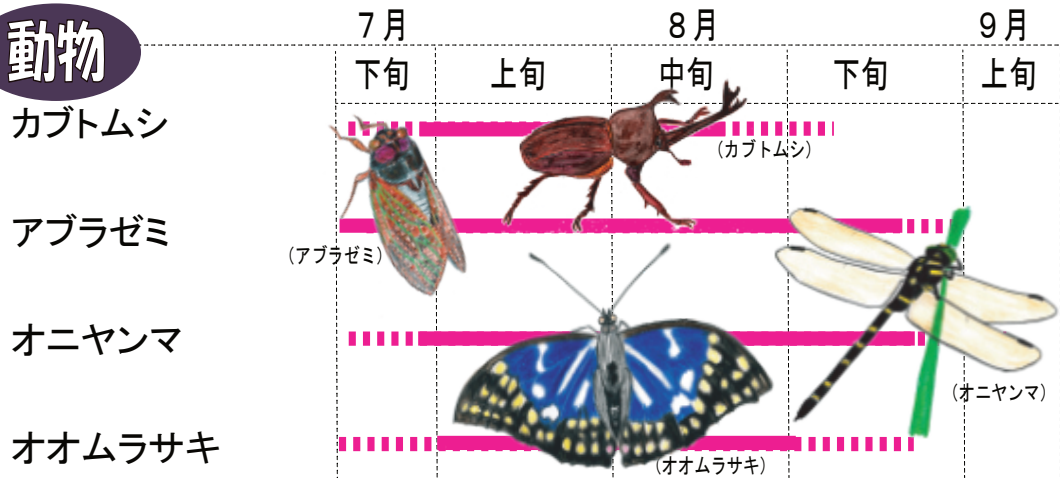
## 植物



自然観察の森では7月中旬から『樹液に集まる昆虫たち』と題してカブトムシやクワガタムシの生体展示を始めました。生体展示を始める前に昆虫採集をしたのですが、クワガタムシは採れたもののカブトムシに関してはほとんど採集することができませんでした。原因はよくわかりませんがここ数年の環境変化が問題なのでしょうか。また自然観察の森は生き物を保護・育成する目的で開設されたためすべての生き物採集が禁止になっています。この時期は特に昆虫採集で来られる親子が多く、子供たちには体験させてやりたいのですがそのようなことが積み重なると生き物たちの生息数を減らしてしまう原因にもなってしまいます。豊かな森を維持するためご協力をお願いします。

【レンジャー：齋 正宏】

## 動物





# 森の「あれこれ」



## 「じっと見て、耳をすませて」



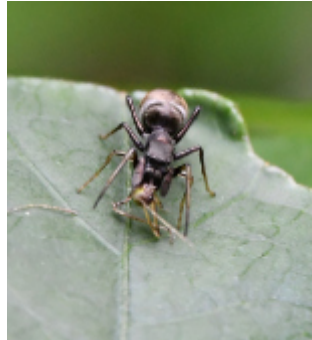
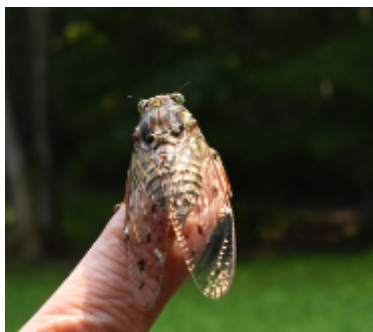
今の季節、急に雷が鳴ったりどしゃ降りになったりで森の中で立ち往生しそうになる時があります。そんな日はあえて屋根のある所から離れず観察します。足元で動く小さな虫たち、セミの声にまぎれて野鳥の声やリスのクルミをかじる音…動き回るよりも動かずにじっと目と耳をすませた方が色々な生きものの気配に気づけます。

右の写真はセンターのかたわらの花壇、とは言っても草ぼうぼうですが自然のままの方が様々な生きものが見つかりますよ。最初は何もいないと思っても、目が慣れると、葉の上のバツタに驚きました。

今回は名前にこだわらず気楽に生きものの様子を楽しみました。

下の写真左上から時計回りに、花に来たアブの仲間、ツユムシの仲間、ザトウムシの仲間、網を張らずに走り回るクモ、なんとアリにそっくりのクモもいました。最後はバタバタ飛ぶ音でつけたセミを指にのせ記念撮影でした。

【レンジャー：木田秀幸】



## 🐰 森は生きている！ 🐿

梅雨が終わり、夏も本格化してきました、森でも樹々たちが緑の羽を広げ、虫たちも鳴き始め、いろいろな生き物たちも、活発化してきています、季節の移ろいは、早いのですが、そんな暑さの中でも、ひたむきに生きている生き物たちの姿を少しでもお届けしたいなと思います。

まずは「引っ越し」で有名な『カルガモ親子』たちです。ヒナたちも大きく育ち、この記事が出る頃には、もう独り立ちしていると思いますが、ヒナたちの生存率はとても低くて、成鳥になるまで残るのは2割ぐらいだそうです、10羽生まれても生き残るのは2羽、厳しい世界ですね。



こちらは、鮮やかな青とオレンジ色の鳥で「水辺の宝石」とも呼ばれる『カワセミ』です、江戸時代の浮世絵にも描かれています。小魚などを食べますが、水質汚染や河川護岸のコンクリート化などにより営巣できなくなると減少する「身近な環境のバロメーター」となっています。「チー」という声で鳴きます。

こちらは『カジカガエル』というカエルです、初夏に「フィーフィー」という鹿のような美しい声で鳴き、千年前より日本人に愛されたカエルです、仙台市では1960年代に水質汚染などにより市街地で姿を消したこともあります、5～7月繁殖で、孵化したおたまじゃくしは緩やかな河川などで暮らしますが、川のコンクリート化で下流に流されるなどして、川の工事によって姿を消すこともあります、樹皮に擬態していて近づくまで分かりませんでした、目が可愛いですね。



まだまだ、紹介したい生き物たちがいるのですが、紙面に限りがあるので、また次の機会に紹介したいと思います、皆さんも地球温暖化の影響で、毎日暑くて日々の生活が大変だと思いますが、たまにはクーラーの部屋から、抜け出して軽い汗をかいて、森の空気を吸いに！お待ちしております。

【レンジャー：菅井 潤】

# 8月のイベント&お知らせ

## イベント

### ◆「親子むしむし探偵団」(夏の虫編)

【日 時】8月17日(土) 10:00~11:30

【対 象】小学生以上の子どもとその保護者 15名

【内 容】散策路を歩きながら昆虫を探し、みつけた昆虫の特徴を調べるなどして観察します

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫除け薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】8月6日(火)午前9時より電話受付(先着)

### ◆「虫のいどころ」

【日 時】8月24日(土) 10:00~11:30

【対 象】定員20名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】昆虫に詳しい専門家を講師に招き、園内を歩きながら昆虫探しのポイントを学んでみつけたものを観察します

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫除け薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】8月7日(水)午前9時より電話受付(先着)



**ガイドウォーク** 毎週日曜日開催  
申込み不要、どなたでも参加できます

**開催日: 4日, 11日, 18日, 25日**

**時 間: 10:00~11:30, 13:30~15:00**

**※4月~11月は午前と午後実施します**

**休館日**



**5日, 13日, 19日, 26日**

**毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館**

### 観察の森へのアクセス



#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

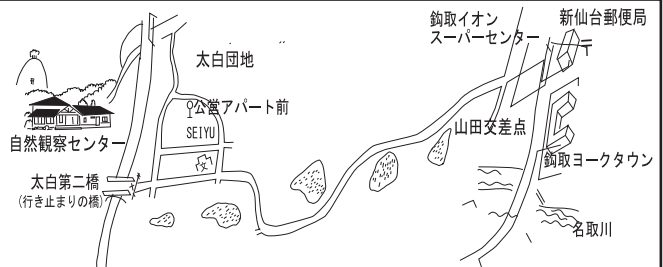
【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。  
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター